

当社原子力発電所の耐震安全性評価のうち地震応答解析での入力データ誤りに関する原因究明と再発防止対策について

1. 入力データに誤りが発生したことの原因究明について

当社は、耐震安全性評価に関する業務に際し、地震応答解析及び建屋耐震安全性評価の実施等に係る業務を、A社に委託し、A社から地震応答解析についてB社に再委託して実施した。

今回の事象は、B社が解析業務を実施するにあたり、入力根拠書の値を電算機に入力する際に発生した。

(1) 玄海3号機及び4号機原子炉建屋地震応答解析モデルにおける質点重量の誤り

- ・入力根拠書の値を電算機に入力する際に、位取りを誤って入力した。(平成18年;玄海3号機) :
- ・入力根拠書の値を電算機に入力する際に、数値を誤って入力した。(平成18年;玄海4号機) :
- ・別々の二人による確認、さらに上長による確認の過程でこれらの誤りを検出できなかった。

原因 : 誤りを検出するための手順が明文化されていなかった。

原因 : 入力根拠書の様式が、間違いを起しやすかった。

(2) 玄海3号機原子炉補助建屋地震応答解析モデルにおける基礎側方地盤ばね定数の誤り

- ・電算機に入力する際、ばねの数を考慮することを失念し、1/2に変換しなかった。(平成20年) :

原因 : 入力根拠書にデータの取扱いに関する留意点を記載する様式となっていなかった。

2. 再発防止対策について

(1) 委託先に対する解析作業手順等についての要求の充実

- ・入力根拠書が、電算機に入力する際に、誤りを起こしにくい様式となっていること
 - ・入力データのクロスチェック*を新たに導入すること
- *入力根拠書を全く別のメンバーが再度作成し、照合

(2) 委託先に対する当社管理の強化

- ・委託先から提出される業務計画書において、入力根拠書、解析結果のチェック方法及び体制について明確化されていることを確認
- ・クロスチェックを含む入力根拠書の作成状況及び入力の確認状況について、当社社員が確認

(3) 教育の充実

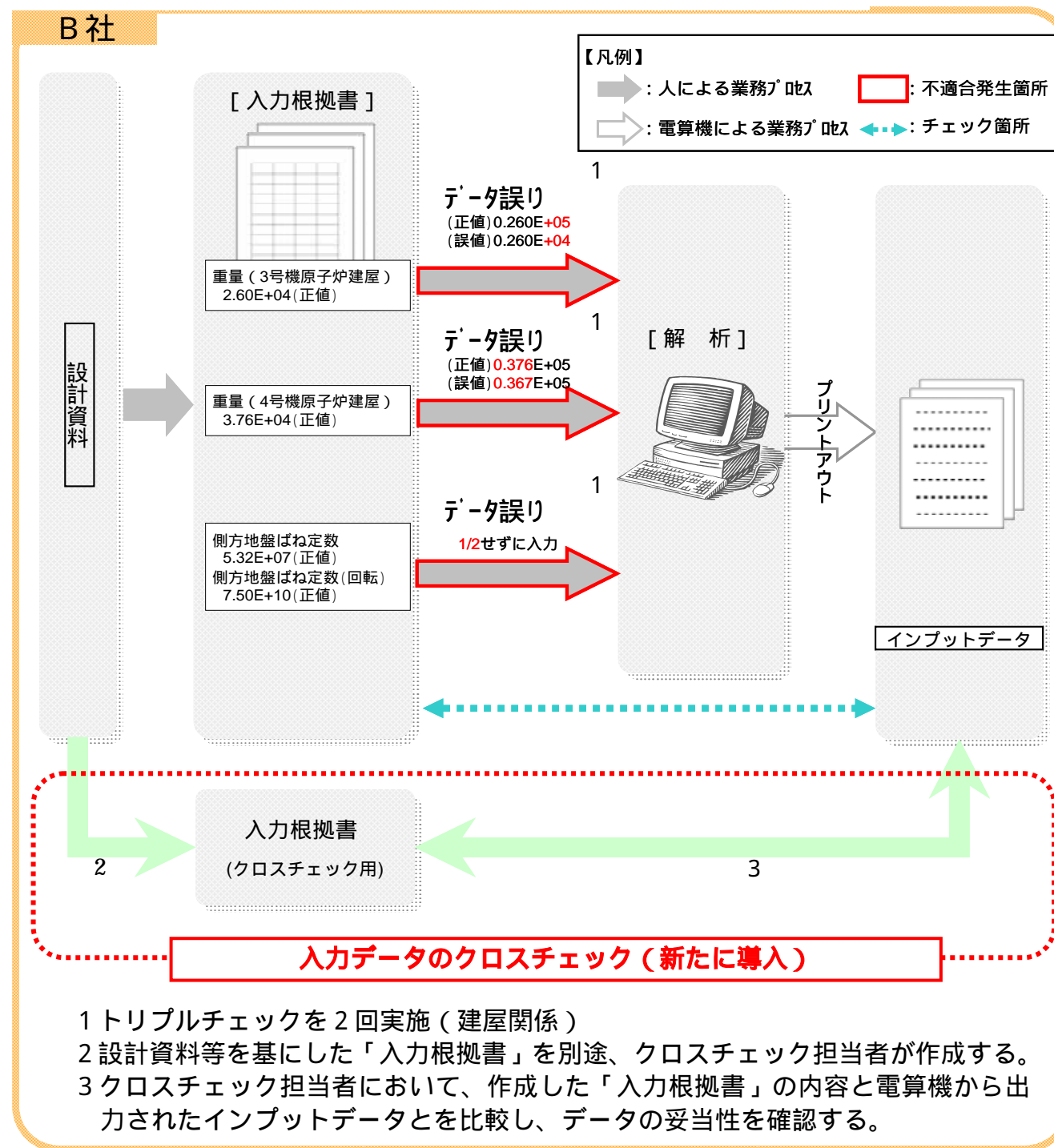
- ・原子力施設におけるデータの重要性についての認識を高める観点から、社内及び委託先に対して、今回の誤りと原因・背景についての教育を実施

(4) 解析業務実施体制の見直し

- ・今後、耐震安全性評価に係わる建屋の地震応答解析は、当社及び委託先の責任範囲を明確にする目的で、当社から解析を実施する者に直接発注

3. 今後の取り組みについて

当社は、今回の再発防止対策を確実に実施することはもちろんのこと、継続し、改善することにより、今後このような誤りを起こすことがないように努めてまいります。



当社

- ・クロスチェック用の入力根拠書のデータが正しいものとなっているかについて設計資料を基に確認するとともに、入力根拠書の値が正しくインプットされているかについて、データを照合することにより確認する。
- ・解析作業における入力根拠書の作り方、データの確認方法等の手順が守られているか、委託先に赴いて直接確認する。